

いにしえ

古よりある場所

秋葉原は常に時代の先端を走り、新しいものを取り込んで変化を続けてゆく街という一面がありますが、その一方で昔くから人が居住する所でもあります。昔からここに住むの人々の活動の積み重ねの結果として現在の秋葉原があり、それはこれからも続いてゆくのです。



千代田区外神田一丁目 2006年11月
2010年11月



秋葉に住む

LIVING IN AKIHABARA 2010.12 VOL.13

TABLE OF CONTENTS

2 千代田区外神田一丁目 2006年11月
2010年11月

<特集>

4 秋葉原旧所・名跡めぐり

6 秋葉原周辺旧所・名跡案内

8 神社 14 寺院

14 古代の遺跡 15 江戸時代

17 学問の礎 19 明治・大正

21 昭和～現代

22 秋葉原周辺の開発状況

東北縦貫線、神田万世橋ビル、淡路町二丁目西部地区再開発、駿河台4-6計画、神田東松下町計画、アトレ秋葉原1、2k540 AKI-OKA ARTISAN

28 秋葉の私室

30 秋葉原の老舗 ～かんだやぶそば～

秋葉に、帰ろう。

32 秋葉原終電案内 2010年12月版

34 分譲・仲介物件ガイド

42 賃貸物件ガイド

47 主要参考文献・主要参考WWWサイト

48 編集後記・奥付

コラム

26 「出沒! アド街ック天国」
秋葉原特集を分析する

エッセイ

31 アキバでクルージング
… TTT 住民 SK

46 秋葉原、ちょっとリッチな
セレブランチ … ビス 美素・オードリー

おことわり

本書の内容は個人的な興味による調査に基づいており、100%の正確さを保証するものではありません。入稿時点(2010年12月上旬)で判明している可能な限り最新の情報となるようにしておりますが、入稿後の状況の変化も起こり得ます。賃料・物件価格につきましては参考として掲載しておりますが、この賃料・価格を保証するものではありません。内容の事実関係につきましては必要に応じ公式な情報をご確認願います。本書の利用により損害を受けた場合にも、発行サークル及び執筆者は一切の責任を負わないものとします。

本書の執筆者は秋葉原の一住人であり、千代田区等各区役所、不動産関係業者、不動産情報提供業者等とは関係ありません。本書の内容につきましては上記機関、各町会、TMO、及びマンション管理組合との直接の関係は一切ありません。

秋葉原 旧所・ 名跡めぐり

秋葉原は古くから人が居住する地であり、このため人間の様々な活動の痕跡である旧所・名跡が今なお多数見受けられます。

最も目立つ名跡としては「神田明神」が挙げられますが、これに限らず、非常に数多くの神社が街の中に見受けられます。また、江戸時代以降、明治、昭和に至るまでの間の様々な史跡があり、現在も表示板などといった形で歴史を留めまします。中には意外な場所で驚くほど目立たない史跡もあるものです。



歴史の中で多くのできごとがあり、街中にある史跡についても、離れた場所にあるものでも実は相互に関連のあるものであるということも多々あるものです。今回の特集では、秋葉原及びその周辺にある様々な旧所・名跡を紹介します。



大安吉日。結婚式と七五三で賑わう神田明神。

秋葉原周辺 旧所・名跡案内



次ページからは、筆者が独断と偏見で選んだ秋葉原周辺の旧所・名跡を紹介いたします。紹介する順序は、神社・稲荷、寺院、その後は概ねの時代順とされています。このため、紹介順と位置との関係はありません。

紹介記事は現地に碑石や紹介板等がある場合には可能な限りそれらを優先し、他は文献やその他の方法により調べています。



神社



神田明神(上:社殿、右下:鳥居、左下:随神門)



講武稲荷神社



花房稲荷神社

秋葉原・神田地区を代表する神社と言えは何と言つても「**神田神社**」「**神田明神**」です。創建は天平二年(西暦730年)と1200年余りの歴史を誇ります。

当初は現在の千代田区大手町付近にありましたが、慶長八年(西暦1603年)に江戸幕府が開かれた後、江戸城の増築に伴い江戸城の鬼門(北東)にあたる現在の場所に元和二年(西暦1616年)遷座され、以後、江戸城の鬼門除け、江戸総鎮守として尊崇されます。

大正十二年(西暦1923年)9月1日、関東大震災により江戸時代に建立された木造社殿は焼失します。そして昭和九年(西暦1934年)に現在の社殿が建設されます。現在の社殿は当時の神社建築としては画期的な権現造・鉄骨

鉄筋コンクリート・総漆朱塗となっています。この社殿は第二次世界大戦時の東京大空襲にも僅かな損傷のみで戦災を耐えぬきました。

戦後は境内に結婚式場・明神会館などを建設したほか、昭和五十一年には総檜造の随神門を再建し、江戸時代に負けない境内の姿を取り戻しました。

神田祭は江戸三大祭の一つとされ、二年に一度の大祭では氏子町百八町会の御輿が次々とここに宮入します。

このほか、外神田地区では「講武稲荷神社」「花房神社」「亀住稲荷神社」があります。

講武稲荷神社(外神田1-9-2)は石丸電気本店の裏手、とんかつ「丸五」の向かいのあたりに立地します。この神



講武稲荷神社



柳森神社



金綱稲荷神社



草分稲荷神社

社は旧・旅籠町三丁目に安政四年（西暦1857年）に鎮座したとされます。社域は関東大震災で焼失したものの、その後の区画整理により現在地に安置されました。由来については鳥居の左手に「講武稲荷神社縁起由来」という掲示板があり、ここに書かれています。

花房稲荷神社（外神田4-4）は、外神田四丁目の路地裏にあります。現在の社は戦後、地元住民が再建したものです。が、神社そのものは江戸時代からこの地にあつたとされます。

亀住稲荷神社（外神田5-4）は豊前小倉藩の中屋敷内にあつた稲荷と神田八軒町にあつた稲荷を一緒に祀ったユニークな社です。神田の「鬼門（北東）」隅にあり、この地の守り神となっています。

このように外神田地区だけでも神田明神の他に三つの稲荷神社がありますが、秋葉原周辺ではこれら以外にも多数の神社や稲荷が見受けられます。

秋葉原駅から南側の万世橋または和泉橋を渡った神田川沿いの柳原通り沿いには「柳森神社」（神田須田町2-25）があります。室町時代・長祿時代に太田道灌が江戸城を築城する際に、鬼門（北東）の方角に多くの柳を植え、京都の伏見稲荷を勧請したことがこの神社のはじまりとされ、のちに現在の地に移されました。

江戸城の築城時に城の守護として勧請した神社としては、日枝神社（千代田区永田町）、築土神社（千代田区九段北）、平河天満宮（千代田区平河町）などがあります。老中松平定信は寛政の頃、この近くに稲蔵を建て、飢饉に備えました。

ここには金龜山稲荷神社、福寿神、浅間神社、金刀比羅神社、幸神社が合祀されています。福寿神は初め五代將軍綱吉の母桂昌院によって江戸城内に創建されたとされます。境内には柳森土手を忍ばせる柳や、力石や百度石があり、区指定有形民俗文化財に指定されています。祭礼は5月にとりおこなわれます。

秋葉原駅の昭和通り側に目を向けてみますと、神田和泉町の和泉公園の南東日本通運（J.P.エクスプレス）の南西隅に「金綱稲荷神社」（神田和泉町2）があります。日本通運の先祖は、江戸時代初期にこの地で飛脚問屋を営業していた「京屋弥兵衛」と言う人で、大事な金銭や信書の輸送にあたり事故の起きない

よう、正一位稲荷大明神をお祭りしたという由来を持ちます。京屋は明治五年（1872年）に設立された陸運元会社に吸収統合され、その後内国通運、国際通運と名称を変え、そして現在の日本通運になりました。

総武線高架の南側に隣接した「区立佐久間公園」の北東隅に「草分稲荷神社」（神田佐久間町3-21）があります。「草分稲荷社大神由来」によればこの社は元々板倉主計頭邸内に祭られていたもので、明治維新の後に武家屋敷が取り払われて町家と変り祠のみが残っていたのを、廃れゆく稲荷を惜しんだ町内の有志が保存と祭社の策を講じていたもので、昭和三十六年（1961年）に現在地に遷座されたとあります。